

第11週(3月11日～3月17日)トピックス:<麻疹>

現在、全国で麻疹患者の発生が複数報告されています。本市においても3月12日に、令和元年以来5年ぶりとなる患者が発生しており、今後の感染の拡大に注意が必要です。

近年の世界における麻疹の発生状況をみると、2019年に541,401例が報告され、2020年、2021年は93,840例、59,619例と2019年と比べ、約1/5以下に減少しました。しかし、2022年以降は増加し、2024年3月時点における2023年の報告数は315,542例となっています(図1)。2020年、2021年の報告数の減少は、2017年から2019年における麻疹流行後の免疫力の向上やCOVID-19流行の影響が考えられます。

2023年は世界的に麻疹症例の報告数が増加しており、インド、東地中海地域、アフリカ地域、ヨーロッパ地域で60,000例を超える麻疹の報告がありました。特にヨーロッパ地域の報告数は2022年の30倍以上と急増しています(図2)。

国内においても、COVID-19流行の影響で減少していたと考えられる麻疹届出数は2023年に28例と前年より増加しました(表)。そして、2024年第11週時点での麻疹累積報告数は20例です(図3)。近年の国内における麻疹の発生は、輸入症例が端緒と考えられる事例であり、COVID-19の流行によって制限されてきた国際的な人の往来が再び活発になっています。今後も海外からの輸入症例に伴う、国内発生の増加が予想されます。

麻疹の感染を予防する対策として、麻疹の罹患歴がなく、2回の麻疹含有ワクチン接種歴が明らかでない場合は接種を検討することが重要です。また、麻疹の発生が常発的にみられたり、患者数が増加している情報のある国や地域へ渡航する際は、渡航者本人の感染予防及び帰国後の国内での感染拡大防止のために、渡航前に2回の麻疹含有ワクチン接種歴があることを確認することが推奨されます。

麻疹に関する情報は、厚生労働省及び国立感染症研究所のウェブサイトで最新の情報を確認することができます。

【厚生労働省】麻疹について
https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/measles/index.html
【国立感染症研究所】麻疹とは
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/diseases/ma/measles.html>
また、海外で注意すべき感染症については、厚生労働省検疫所のホームページ「FORTH」に最新の情報が提供されています(<http://www.forth.go.jp/index.html>)。

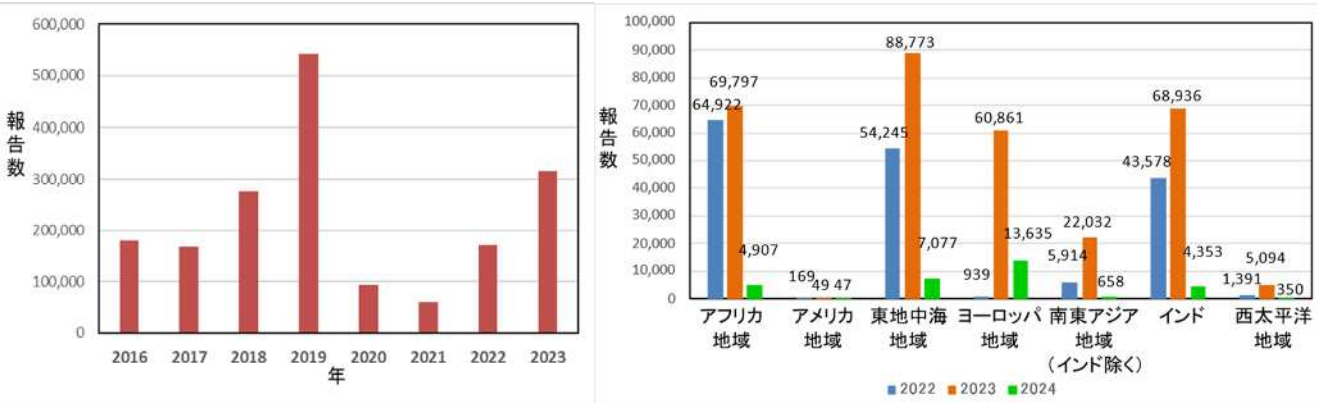


図1 2016年から2023年の世界の麻疹報告数(2024年3月時点)* 図2 2022年から2024年の海外6地域の麻疹報告数(2024年3月時点)*

表. 国内の感染者数の推移(2024年11週まで)

年	全国(人)	京都市(人)
平成20年	11,015	106
21年	147	4
22年	447	2
23年	439	0
24年	283	1
25年	229	3
26年	462	4
27年	35	0
28年	165	2
29年	186	1
30年	279	1
31年/令和元年	744	2
2年	10	0
3年	6	0
4年	6	0
5年	28	0
6年(～11W)	20	1

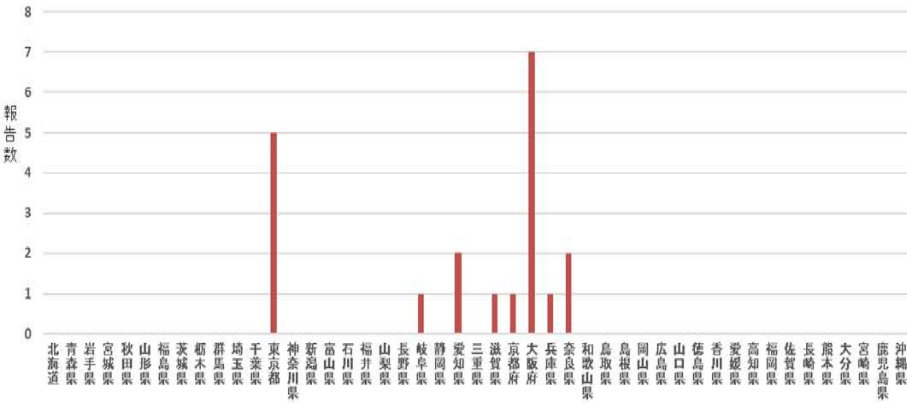


図3. 2024年都道府県別麻疹累積報告数(2024年11週まで)

※出展:WHO Measles and Rubella Global Update March 2024(データを一部編集し、使用)